

2023. Mar.
Reboot 7



アクセスページ

暮らりネット ClariNet

— 特集 —

「全員が持てる力を常に発揮して協力し合う」をモットーに
古河総合病院の”薬剤部”のメンバーを特集!



医療法人 徳洲会 古河総合病院

〒306-0041 茨城県古河市鴻巣1555番地 TEL 0280-47-1010(代表)
<https://www.kogahosp.jp/>





全員が持てる力を 常に発揮して協力し合う

薬剤部長

酒井 郁子

薬剤部は何をすることで？

当院の薬剤部では、医師の処方をもとに薬を調剤し、主に病棟の患者様に投薬することを職務としています。その過程で特に大事にしていることは、処方箋はあくまで1枚の紙に過ぎず、「薬＝患者様を癒すもの」として薬剤師も責任を持って、処方箋の裏側にある患者様の背景にも思いを馳せることです。例えば用法や用量に疑問が生じた時は、電子カルテから患者様の基本情報、検査値等を調べ、処方医に疑義照会をしたり、お身体の状態を事前に病室に向いて本人からお話を伺い、確認した上で調剤を行うこともあります。

薬剤部の特徴は？

一つは院外の調剤薬局と連携した分業体制をとっていることです。私たち病院薬剤師は各病棟に常駐しながら、薬の管理はもちろん、医師や看護師の業務サポート、その他のスタッフたちを含め患者様へのより良い医療提供を目指すための「チーム医療」へ参加させていたいただいております。また週に3日、15分程度、各病棟薬剤師の持ち回りで事例検討会を行っており、感染症・がん治療・NST（栄養サポートチーム）・循環器等、それぞれに得意分野があり、様々な観点からのアドバイスを、過去の経験事例からの意見交換を行い、共に医療に向き合う時間を設けています。これら毎日の積み重ねで「薬剤部スタッフ間の業務標準化」が構築できているという点も、当薬剤部の特徴の一つであると思います。これは、薬剤部の理念である「全員が持てる力を常に発揮して協力し合う」に基づいており、当院オープン以来から、ずっと大切にしているモットーです。

また、もう一つの特徴として、徳洲会グループの薬剤部としての強みがあります。日本全国75病院で800名を超える薬剤師がいるのですが、「三人寄れば文殊知恵」という

諺の通り、最近ではグループの病院間でWEBオンライン研修会も盛んに開催されており、情報交換の機会が増えることで、日々、日常業務推進のヒントを得ることができています。

薬剤部にはどんなメンバーがいる？

現在、11名の薬剤師が在籍しており、幅広い年齢層やキャリアのメンバーが集まっています。新卒からのスタッフ、他の徳洲会からの割愛転勤者、一度転職したが戻って頑張っている職員や、定年を過ぎても続けてくれている職員まで、皆が伸び伸びと働いています。当院の福江院長が昔から「年上の患者様には敬意をもって、また、自分の周りの方には感謝の気持ち忘れずに接しなさい」とよく話されてきました。私のスタッフに対する思いにその理念が浸透したことで、自然と風通しの良い雰囲気生まれ、職員皆が患者様に寄り添う医療に集中できる環境が整ってきたのかもしれない。

地域の皆様、外来患者様に置かれましても、薬の相談や、その他お困り事など、どんな事でも構いませんので、当院の薬剤師に是非、気軽にお声掛けいただければ幸いです。



働く職員たちの人柄が 一番の強み

薬剤師

宮下 千佳

(入職4年目)

古河総合病院で働きたいと思った きっかけ・エピソードは？

学生時代に就職説明会で知ったのがきっかけです。元々地元が古河市だったこともあって、病院見学にきた際、酒井部長を筆頭に現場で働く職員たちの人柄に惹かれたことが一番の決め手でした。特に驚いたエピソードは、病院見学終わりに、酒井部長に「薬剤部の職員に挨拶をしてみる？」と言われ、数人の方々と話すのかと思っていたら、職員のほぼ全員を紹介され、気さくに話しかけてもらえた事です。それが強く印象に残り、「この方々と一緒に働きたい」と思っ

て入職を決めました。

実際に働いてみても、薬剤部の職員の皆が優しく、話しかけやすい雰囲気があるので、患者様の薬の内容で悩んだり、わからないことがあった時にいつでも先輩方に相談できるのがありがたいです。

古河総合病院の薬剤部の良い所は？

やはり働く職員たちの人柄ですね。どの職員にも患者様が話しかけやすい雰囲気を作れているというのは凄く良い部分だと思います。また、病棟業務に専念できるので、入院されている患者様一人ひとりとしつかりとコミュニケーションがとれて、近い距離感で厚いサポートができることも良い部分だと思います。それに加え、グループ全体で勉強会の情報も多く流れてくるので、自分の知識やスキルアップの機会が多い点もメリットです。

仕事のやりがいとは？

患者様から感謝のお言葉を頂けた時に、何か少しでも力になれたと実感できることがやりがいです。まだまだ勉強しないといけないことが多いですが、もっと成長して、古河総合病院の薬剤師として地域医療に貢献していきたいと思っています。



患者様の不安を取り除く 環境づくりを徹底

薬剤師

船田 優理

(入職9年目)

古河総合病院の薬剤部の良い所は？

働き手の目線で言えば、アットホームな雰囲気、良い意味で気を遣わずのびのびと働ける環境があることです。また、自分がやりたいと思う業務はいくらでもやらせてもらえるので、たくさんさんの経験が出来ること、臨機応変な対応力が身に付くところは当院ならではの長所だと思います。また、入院患者様に対しては、入院前の事前面談で薬や食品のアレルギーを調書したり、お体のことをヒアリングをさせて頂く機会をつくったりすることで、入院前に抱かれるご不安をできるだけ取り除き、安心して入院できる環境づくりに取り組んでいるところも良い点だと思います。

一度転職して戻ってきた理由は？

一度、外部の病院も経験したいと考え、転職を試みたのですが、転職先では療養病棟がメインということもあって、患者様とお話させて頂く機会も少なく、決まった業務だけ行う環境でした。やはりたくさんのお患者様と接したい、色々な業務を経験していきたいという思いが強くなり、古河総合病院でもう一度チャレンジをしたくて戻ってきました。

仕事のやりがいとは？

病棟業務に特化しているのです。入院患者様とのコミュニケーションの機会が多いこと、その中で他部署と連携して様々なサポートが出来ることにやりがいを感じます。また、最近は新型コロナウイルスのワクチン接種の仕事で、ワクチンの保管業務を担当し、地域の皆様の接種に貢献できたこと、その際に院内だけではなく、古河市内の大規模会場で地域の薬剤師の方々とも交流が増え、連携が強化できたことも良い経験となりました。

あとは、患者様の退院時には直接、感謝のお言葉を頂ける事が何より嬉しいですね。



自分の得意分野が活かせる環境

薬剤師

中田 修平

(入職6年目)

古河総合病院で働きたいと思ったきっかけ・エピソードは？

正直、家が近かったからです(笑)。というのは冗談で、就職活動をしていた時に徳洲会系列の病院をいくつか志望していたのですが、その中でも古河総合病院の薬剤部の雰囲気であったり、酒井部長の人柄に惹かれて入職を決めました。入職してからも、事前にイメージしていた通りのアットホームな雰囲気で、先輩方も優しく、とても働きやすい環境だと感じます。

仕事のやりがいとは？

入院患者様が中心にはなりますが、患者様との距離が近く、薬の調剤業務に加えて直接コミュニケーションの機会を頂ける環境は、働き手にとってもやりがいがあります。個人としては、患者様のご不安を出来る限り取り除けるよう、どんな些細なことでもご相談にのるよう心掛けています。

また、自分はPCや電子機器の扱いが得意なので、それを活かしてDI業務(医薬品情報の管理・収集・共有を行う業務)に携わらせて頂けており、院内に必要な情報を精査し、職員に最新の薬の情報をアウンスするということを任せてもらっています。薬剤師の中にはコミュニケーションに優れた方もいれば、薬のピッキングが上手な方もいますし、自分のようにITに強い人間もいます。どんな職員であっても活躍できる場を用意してもらえていることは、当院の良い所であり、薬剤部で働く職員たちのつくる温かい雰囲気あつてのことだと思っています。

恵まれた環境に感謝をしながら、患者様と地域の皆様の医療に貢献できるように、これからも努力していきたいと思っています。